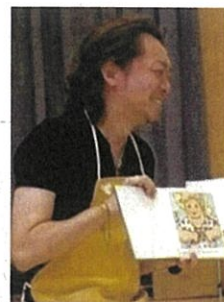


プロフィール

安藤哲也(あんどう・てつや)

- 1962年生まれ。現在、21歳(女)、18歳(男)、11歳(男)の父親。
大学卒業後、出版やIT系企業で働く。06年11月、会社員(管理職)の傍ら、父親の子育て支援・自立支援事業を展開するNPO法人ファザーリング・ジャパン(FJ)を立ち上げ代表に。2012年には社会的養護の拡充と児童虐待の根絶をめざすNPO法人タイガーマスク基金を立ち上げ代表に。
2017年には「人生100年時代の生き方改革＝ライフシフト」をテーマにライフシフト・ジャパン(株)を設立し取締役会長に就任。
- 地域では、保育園、学童クラブの父母会長、小学校のPTA会長を務めるほか、2003年よりパパ's絵本プロジェクトのメンバーとして、全国の図書館・保育園・自治体等にて、パパの出張絵本おはなし会を開催中。
- 著書に『パパの極意～仕事も育児も楽しむ生き方』(NHK出版)、『絵本であそぼ!』(小学館)、『できるリーダーはなぜメールが短いのか』(廣済堂出版)などがある。
- 主な委嘱委員・・・厚生労働省イクメンプロジェクト推進チーム座長/内閣府・ゼロから考える少子化対策プロジェクトチーム/内閣府・男女共同参画推進連携会議/国土交通省観光庁・休暇改革国民会議/東京都・次世代育成支援検討委員会/東京都・子育て応援とうきょう会議/文部科学省・父と子の愛着形成プログラム研究委員会/厚生労働省・男性の仕事と育児の両立意識啓発事業委員会/内閣府・少子化社会対策に関する先進的取組事例調査研究会/内閣府・認定こども園制度の在り方に関する検討会/松戸市・男女共同参画推進協議会/埼玉県地域家庭教育推進協議会/電通ジセダイ育成委員会/にっぽん子育て応援団団長/文京区・少子化対策チーム委員/内閣府・子供の未来応援国民運動発起人/財務総合政策研究所・女性活躍研究会委員



福山市／みんなのライフスタイル応援会議

笑っている父親が社会を変える
～子育てパパの活躍はボウリングの一番ピン～



NPO法人ファザーリング・ジャパン 代表理事
安藤 哲也

2019年5月8日

FJのさまざまな支援事業



2017～ 男の100年ライフ・プロジェクト

特定非営利活動法人

ファザーリング・ジャパン (FJ) 概要



「Fathering＝父親であることを楽しもう」という考えを持つ若い世代の父親を支援。働き方の見直し(WLB)や企業の意識改革、地域社会の再生など**父親育児の環境づくりと次世代育成**を目標に、セミナー、スクール、検定、旅行、出版などさまざまな父親支援事業を展開。また父子家庭支援や男性の育休取得推進など政策提言としての活動も行う。 www.fathering.jp

- ★設立:2006年11月
- 個人会員:400名(パパ95%)
- 法人会員:13社
- メルマガ会員:11,000名
- (2018年12月現在)



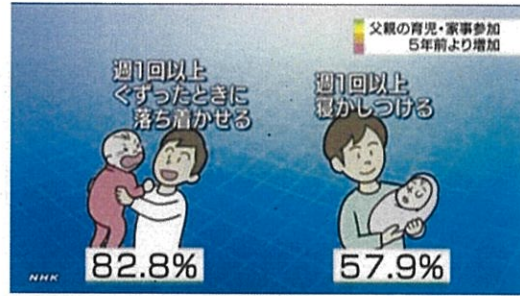
イクメン（育児に積極的な男性）が増え、 社会のムードも変化



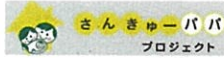
育てる男が、家族を変える。社会が動く。



イクメンプロジェクト 厚生労働省イクメンプロジェクト



2013.4月 NHKニュースより



★保育園の送迎をする父親も増えてきた



百貨店もイクメングッズ
販売を強化



グラシムフィオニア
戸田公園
GRANSYMPHONIA

子育て支援マンション
で、パパ向けセミナー

- ★ 育休取得率2.6% 過去最高！（23年度）
- ★ 男性新入社員の72.8%が、育休取得を希望（日本生産性本部調べ）

▶ 6



「父親になる」「父親をする」

父親になる、
父親をする

東京心療学院の先生から

柏木 恵子



柏木恵子
2011年



「父親になる」(Becoming a father)
→子どもが産まれて親になる



人間の子どもは養育・子育てが必要



人間の場合は「父親になる」だけでは済まない



「父親をする」(Doing a father = Fathering) ことが必要 → 育児・子育てをする

Fathering (ファザーリング) とは？

- ★父親であることを楽しもう。
- ★地球上で、父親ほど素晴らしい仕事はない。
- ★育児は、期間限定のプロジェクト X。
- ★育児は能力開発の機会、アナザーワールドへの入り口。
- ★よい父親ではなく、笑っている父親
▶⁷ になろう！

お父さん効果 (The Father Effect) ②

2. 父親と多くの時間を過ごした子供は、IQが高い

英ニューカッスル大学研究チーム1958年に生まれた男女11,000名を対象に、「育児における父親の役割」

3. 父親と多く会話するほど、子供の言語能力が発達する

米ノースカロライナ大学の研究チームは、2歳の子供を持つ共働き夫婦を対象

4. 父親が育児するほど、子供の社会性(EQ)が向上する

イギリス国立児童発達研究所が30年間に渡って行った、7歳・11歳・16歳の児童17,000名を対象にした追跡調査のデータを、英オックスフォード大学の研究チームが分析

「成長期に父親とよく交流する子供は『非行に走らず学業成績が優秀』『人間関係が良好』『新しいことへの挑戦心・達成意欲が高い』という特徴が見られ、**成人してからは『自身の能力を発揮する職業につき、結婚して幸せな家庭を築く』**という傾向が強く見られた」そうです。



父親が育児するほど、子供の人生は幸せになりやすい

お父さん効果 (The Father Effect) ①

1. 父親が子育てに参加するほど、子供の自尊心が高まる

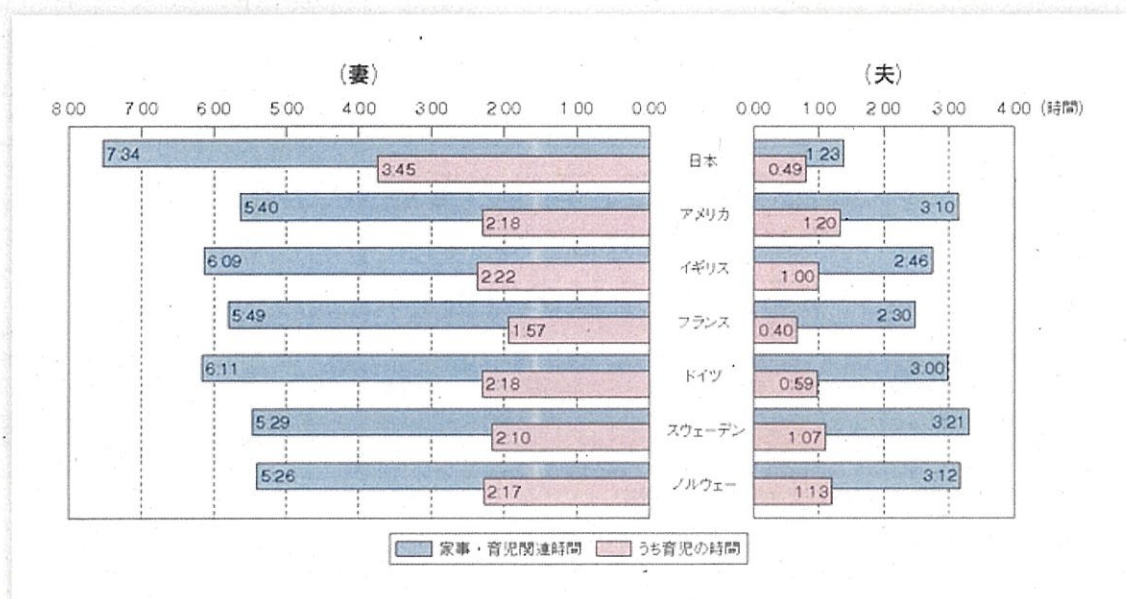
- ・オモチャを持って癪癪をおこしたりしない。
- ・「○○を持ってきて」という頼み事をスンナリきいてくれる。
- ・初対面の人とでも、躊躇せず会話ができる。
- ・他の子供たちと簡単に打ち解けることができる。
- ・よく笑う。
- ・我慢強い。
- ・会話に対する反応が速い。
- ・新しい遊びへの挑戦を楽しむ。
- ・父親との関係が良好。
- ・父親だけではなく、母親との関係も良好。



幼児期に父親から多く遊んでもらった子供は、自尊心が高まり、自らへの愛情や自信に満ち溢れ、少々のトラブルにもへこたれない強い精神力を持つようになる。

(米国・発達心理学者カルデラ博士「父親が子育てに積極的に参加している家庭の子供たち(幼児)調査」)

6歳未満の子のいる夫の家事・育児時間 1日あたり・国際比較



(備考) 1. Eurostat "How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men" (2004)、Bureau of Labor Statistics of the U.S. "American Time Use Survey" (2016) 及び総務省「社会生活基本調査」(2016年)より作成。
 2. 日本の数値は、「夫婦と子供の世帯」に限定した夫と妻の1日当たりの「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の合計時間(週全体)である。
 資料：内閣府資料

現代の父親の家庭生活の悩み・課題



①仕事が忙しくて育児時間が取れない
 (育児時間=43分/日、育休取得=5.1%
 有休消化率=50%、慢性的長時間労働)



②子どもとどう向き合っているかわからない
 ③子どもが生まれてから、夫婦関係が悪化した

家庭が「ホーム」ではなく「アウェー」に

笑う父親になるための、 ファザーリングの極意6カ条

子どもができたらOS(父親ソフト)を入れ替えよう

義務から権利へ。客体から主体へ。さらば「家族サービス」

男の育児家事は、質より量。イトコドリをやめよう

子育てパパは仕事もデキル。育児で備わる3つの能力

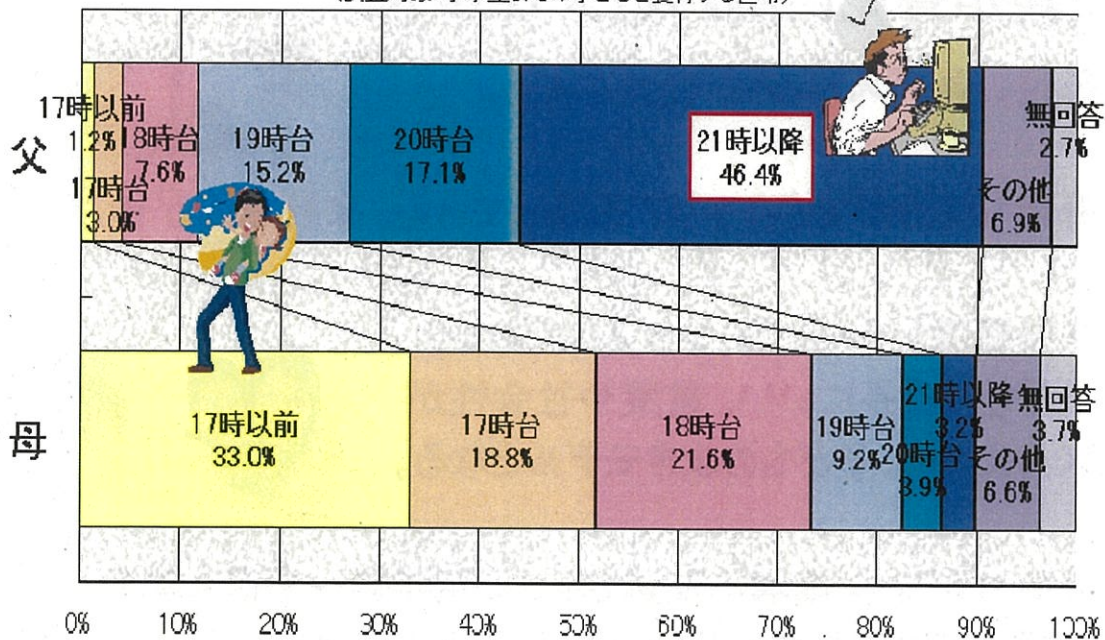
パートナーシップの構築～妻の人生は、夫のものではない

地域活動を通じて、シチズンシップを獲得しよう

▶ 14

パパ、ママは何時に帰っている？

(調査対象:小学生までの子どもを養育する世帯)



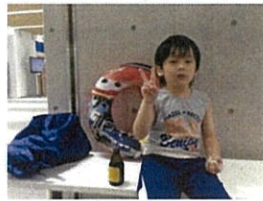
資料:平成19年度東京都福祉保健局基礎調査「東京の子どもと家庭」(速報)

意識と働き方を見直そう

子育てにおける父親（父性）の役割



①乳幼児期 / 子どもの世話(チャイルドケア)



②思春期～青年期 / 人材育成



③親からの自立=育児のゴール

★子どもの「育ち」の環境整備こそが、父親の役割

▶母親の幸福感が子どもを育てる。ママの幸せをつくるのは夫と社会システム

父親が育児に関わるメリット

- ・母親の育児ストレスが軽減される。
- ・母親も就労ができキャリアを継続できる。家計収入が伸びる。
- ・夫婦関係(パートナーシップ)が強まる。
- ・子どもの成長にいい。言葉や社会性が早く身につく。子どものよきモデルとなる。
- ・自活力がつく。地域に友達も増え、定年後～老後も安心。
- ・仕事で有効な能力も身につく。労働生産性が上がる。
- ▶父親自身の世界が広がり、人生が楽しくなる。



父親ネットワークが地域社会にもたらすもの

- ①地域の安全性が高まる
- ②子どもの居場所が増える
- ③子どもたちが多様な父性に接し社会性や職業感が育つ
- ④持続可能な共生社会が構築される
- ⑤コミュニティが活性化し、社会資本(資産価値)が高まる

▶ 18

現代の父親に必要なパパカ

① ママを支える

② パパ友をつくる

▶ 17

パパはイクメンだけど。。。

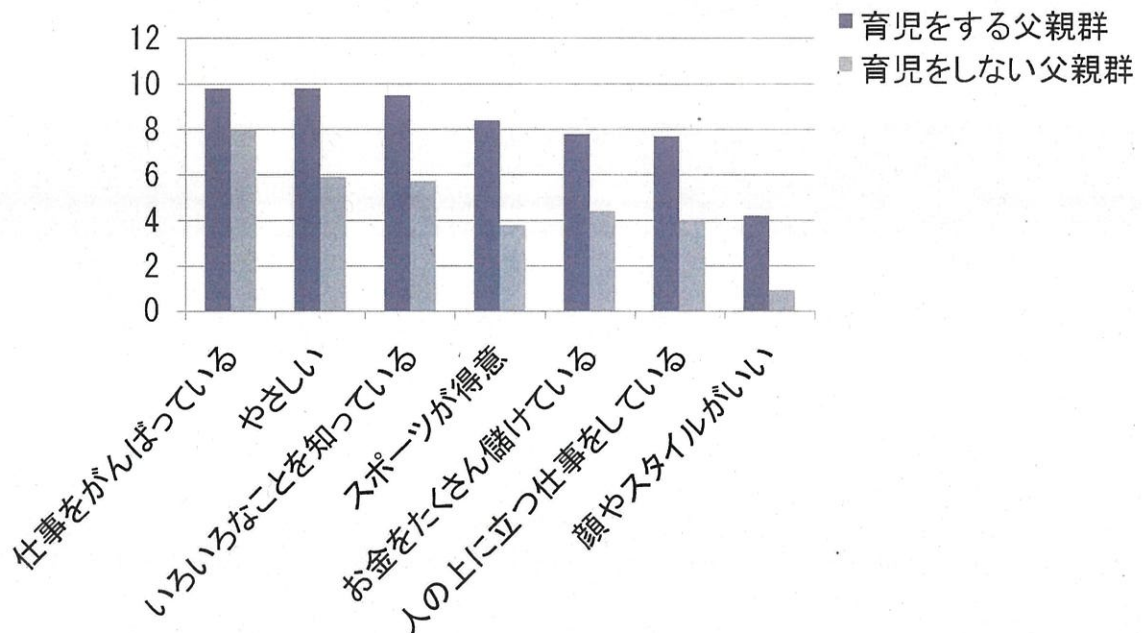
▶ パパがイクメンでもズレがある！

- ▶ 夫のやっていることと、私のやってほしいことにかなりズレがある。
- ▶ 休むのは基本的に私。仕方ないとは思うけど、不公平。
- ▶ 「いいパパ」だけど、「いい旦那」かというと???
- ▶ 「いいパパ」だけど「父親」という感じがあまりない。
- ▶ 子育てが「趣味化」してる！
- ▶ 子どもに過干渉な部分がある。

▶ パパがイクメンでも「孤育て」。

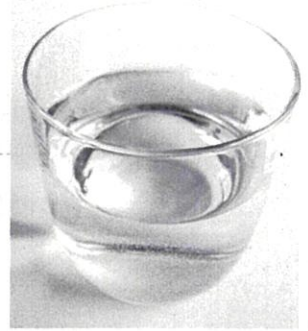
- ▶ 子育てを共にしてくれる旦那さんや家族がいたとしても、第一子となると初めての子育てで周りに頼れる人も少なく、外のコミュニティへ踏み出すには勇気が必要。
- ▶ 核家族だからとか実家が遠いではすまされない孤独感。
- ▶ 家事や育児は十分。私の心のケアをして欲しい。

子どもは父親をどう見ているか？



ママに必要なもの ⇒ **共感 受容 賞賛**

大変さを**理解**して欲しい。
頑張っていることを**褒め**て欲しい。
努力していることを**認め**て欲しい。
辛いこと、楽しいこと全てに**共感**して欲しい。



エンパワメント！

共感してもらおう→心が満たされる→心の余裕ができる
話を聴く。受けとめる。共感する。

ママに必要なもの ⇒ **解決策 ロジック 理論**

22

ここが問題！！

**気づいて欲しい妻
気づけない夫**

**責められたくない妻
褒められたい夫**

「わかってよ！」 「わかるだろう？」
「私の方が大変！」 「俺の方が疲れてる！」
「同志」 「パートナー」が「敵」 「ライバル」に！

Fathering Japan
イクボスプロジェクト
IKUBOSS PROJECT



イクボスとは、職場で共に働く部下・スタッフのワークライフバランス(仕事と生活の両立)を考え、その人のキャリアアップと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司(経営者・管理職)のことを指す。



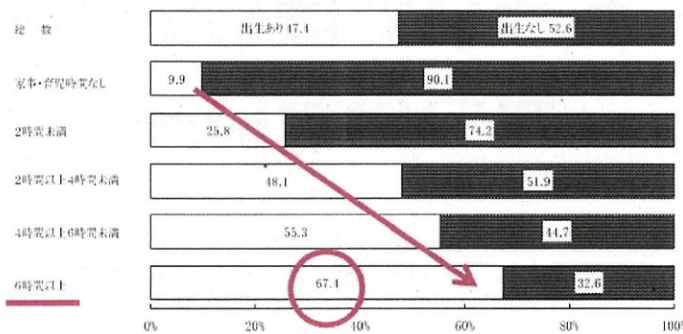
DUAL式
「イクボス」養成講座
安藤哲也



イクボスの「育」は・・・、
部下を育てる
企業組織を育てる
社会を育てる

夫の家事・育児時間が長いほど、第2子以降の出生割合が高い。

子どもがいる夫婦の夫の休日の家事・育児時間別に見た、この8年間の第2子以降の出生の状況



注) 調査対象は、生まれた日に該当し、6ヶ月未満に該当する回答夫婦である。ただし、妻の出生前データが得られていない夫婦は除く。
① 第1回調査から第9回調査まで回答が同等した夫婦
② 第1回調査時に出生で第9回調査までの間に結婚し、結婚後第9回調査まで回答した夫婦
③ 出生前調査時に、子ども1人以上いる夫婦
④ 家事・育児時間は、出生あり・出生前調査時のみ、出生なしは第9回調査時の状況である
⑤ 8年間で2人以上出生ありの場合は、未子についておこなっている
⑥ 総数には、家事・育児時間を詳を告げ

出典：厚生労働省「第9回21世紀成年者縦断調査」(2011)



夫の家事・育児時間が長いほど、第2子以降の出生割合が高い。
休みの日に、父親が家事・育児に関わる時間が長いほど、第2子が生まれやすいという調査結果となっている。

企業のダイバーシティ・女性活躍推進の中で

男性育休100%や、 育休の有給化などがトレンドに

→(大手) 日本生命、関西電力(7日間)
リクルートコミュニケーションズ(5日間)
東急電鉄(有給43日)、アクサ生命(有給1か月)
積水ハウス(※1か月完全取得←評価に影響なし)
ソニー、大和証券、丸井グループ、旭化成、
リコーリース、昭和電工、住友生命、大成建設など

(中小) あわしま堂(愛媛)、桔梗会(群馬)(100%)
アースクリエイティブ(岐阜)、ヒューリック(東京)

▶ **男性育休取得率5.1%に。**

2015年3月20日

少子化対策大綱 閣議決定！

- ①5年後に「男性の配偶者の出産直後の
休暇取得率80%」実現
- ②「イクボス」や「子育て」を尊重するような
企業文化の醸成、「パタハラ」防止





父親が変われば、社会が変わる。

「父親をすること」が可能な社会とは

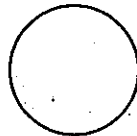
『「育メン」現象の社会学』2013年(石井クツ昌子)

家庭・職場において
「男は仕事」の意識を変える
→ 小中高教育、父親支援団体

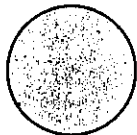
フレキシブルワークの
積極的な導入
(フレクスタビリティ)
→ 企業

ファザーフレンドリー職場
(ロール・パーツモデルの重要性
しかし「トークニズム=申し訳」程度
の努力で終わらない)

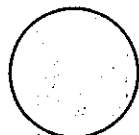
子育ては大事業→社会と地域全体が
かかわることが必要
父親支援の重要性
(政府、地方自治体、企業、ファザーリ
ング・ジャパンなどのNPO団体、地域の
父親支援、父親ネットワーク、女性団
体など)



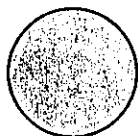
男性の育児・家事参画



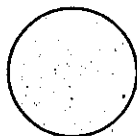
DV・児童虐待



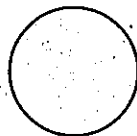
若年&熟年離婚



介護離職



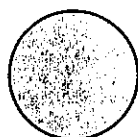
働き方改革



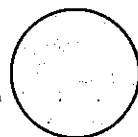
女性活躍推進



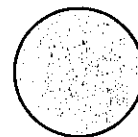
人口減少



少子化対策



地域社会活性化



男女共同参画

男性が変われば、社会がTransformation

